

ダニエル
聖徒伝 217

神中心か？ 人中心か？

ダニエル書8章

御羊と雄山羊の幻

アウトライン

0. イントロダクション

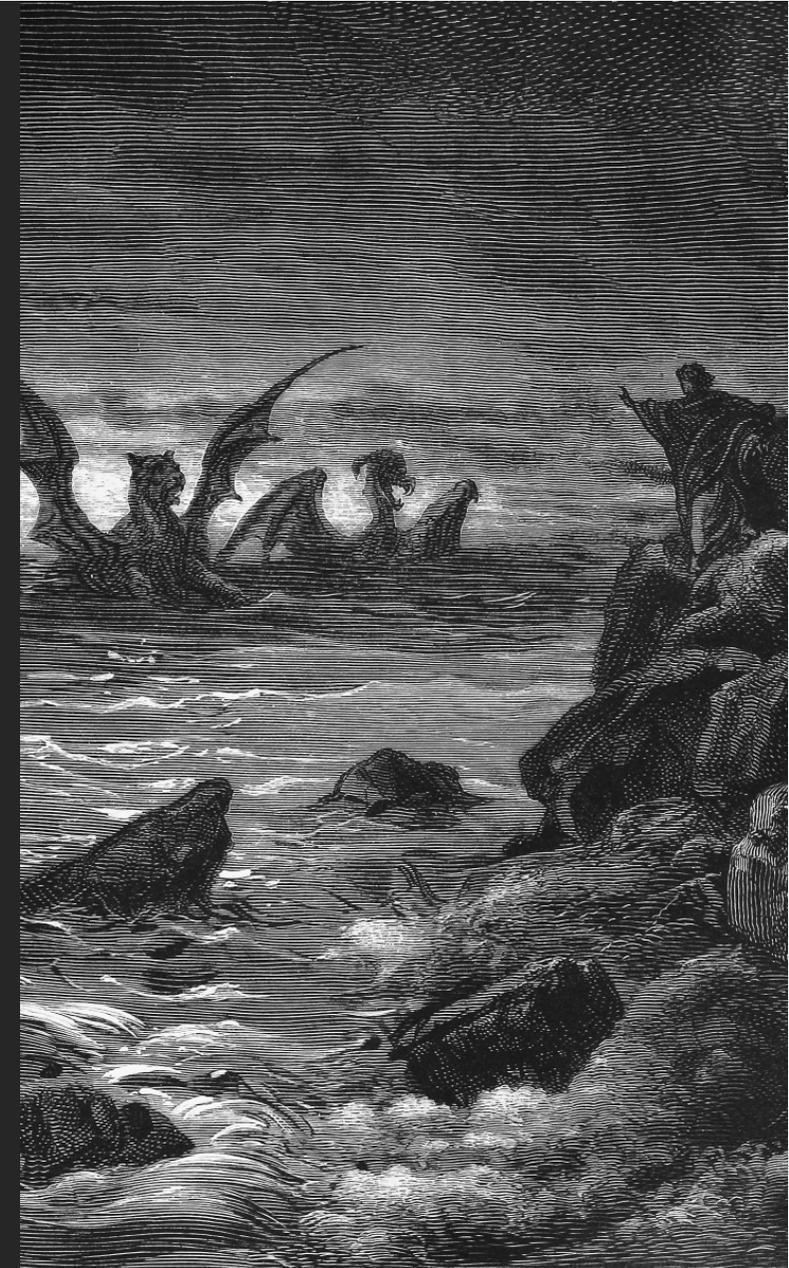
I. もう一つの幻 1～14節

II. 幻の解き明かし 15～27節

III. まとめと適用

ヘレニズムとヘブライズム

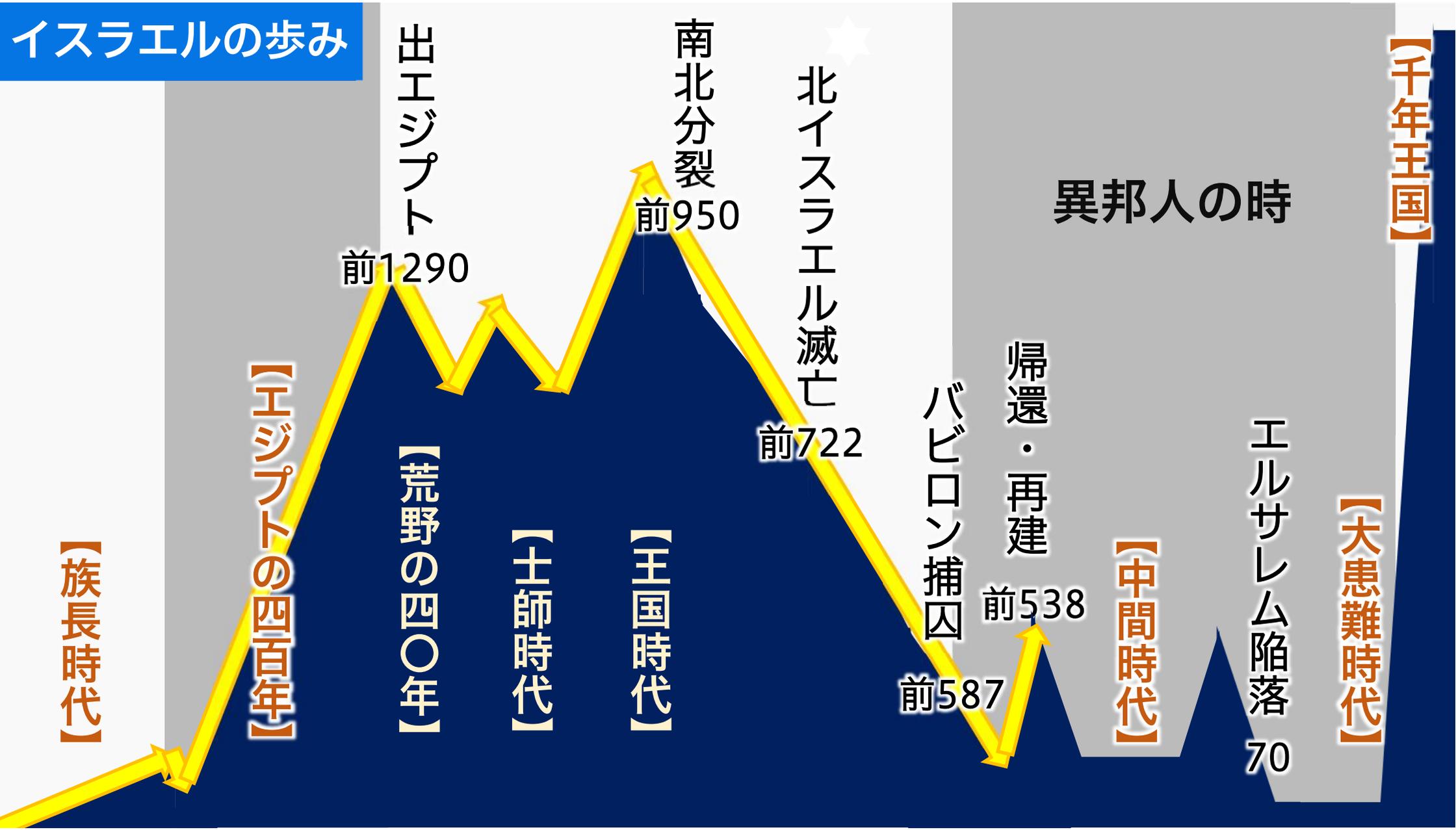
神中心か？ 人間中心か？





0. イントロダクション

イスラエルの歩み



【族長時代】

【エジプトの四百年】

【荒野の四〇年】

【士師時代】

【王国時代】

前1290

前950

前722

前587

前538

70

【千年王国】

【大患難時代】

異邦人の時

エルサレム陥落

【中間時代】

帰還・再建

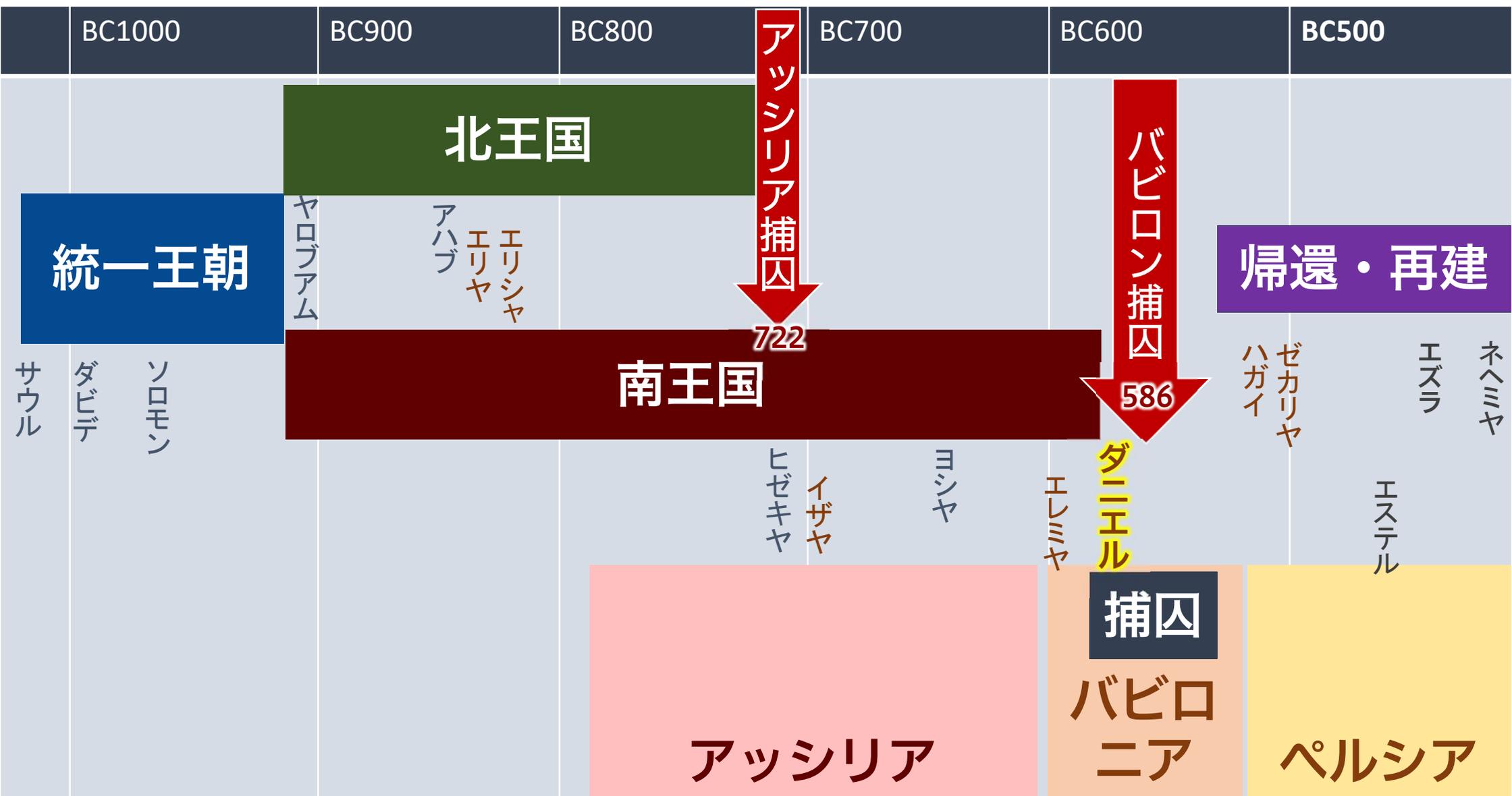
バビロン捕囚

北イスラエル滅亡

南北分裂

出エジプト

イスラエル王国史



ダニエル書の構成

章	記述	言語	王国	王	内容
1章	歴史	ヘブル語	バビロニア	ネブカドネツアル	ダニエルの召命
2章		アラム語			つぎはぎの像
3章					炉に入れられた3人
4章					ネブカドネツアルの回心
5章					ベルシャツアル
6章			ペルシア	ダレイオス	ダニエル、ライオンの穴へ
7章	預言		バビロニア	ベルシャツアル	四頭の獣
8章		ヘブル語			雄羊と雄山羊の幻
9章			ペルシア	ダレイオス (キュロス)	70週の預言
10章					天の御使い
11章					ペルシアの運命
12章					終わりの時

8章の背景

- ネブカドネツアル王の死後、バビロニアは混沌とし、次々と王が入れ替わった。
- 最後の王となるのが、ベルシャツアル。この頃には、ダニエルは、閑職に追いやられていた。
- ダニエルが復歸したのは、バビロン陥落前夜。神の指が記した言葉から、バビロニア滅亡を予告。
- 黄昏のバビロンで、晩年のダニエルは四頭の獣の幻を見、その2年後、御羊と雄山羊の幻を見る。



世界帝国の変遷 「四頭の獣」 ダニエル7章

獣	内容	王の権威	力	特徴
①獅子?!	バビロニア	★★★★	★	絶対王制
②熊?!	ペルシア	★★★	★★	立憲君主制
③豹?!	ギリシャ	★★	★★★	民主制 (独裁)
④異形	ローマ以降	★	★★★★	共和制 (帝国主義)
十本の角	十の王国	—	—	統一と分裂
一本の角	反キリスト	★★★★	★★★★	サタンの化身

【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



【預言者たちの告げたこと】



南北時代



① 直近の
苦難

メシア初臨



② 主の日
大患難時代



③ 回復
メシア再臨

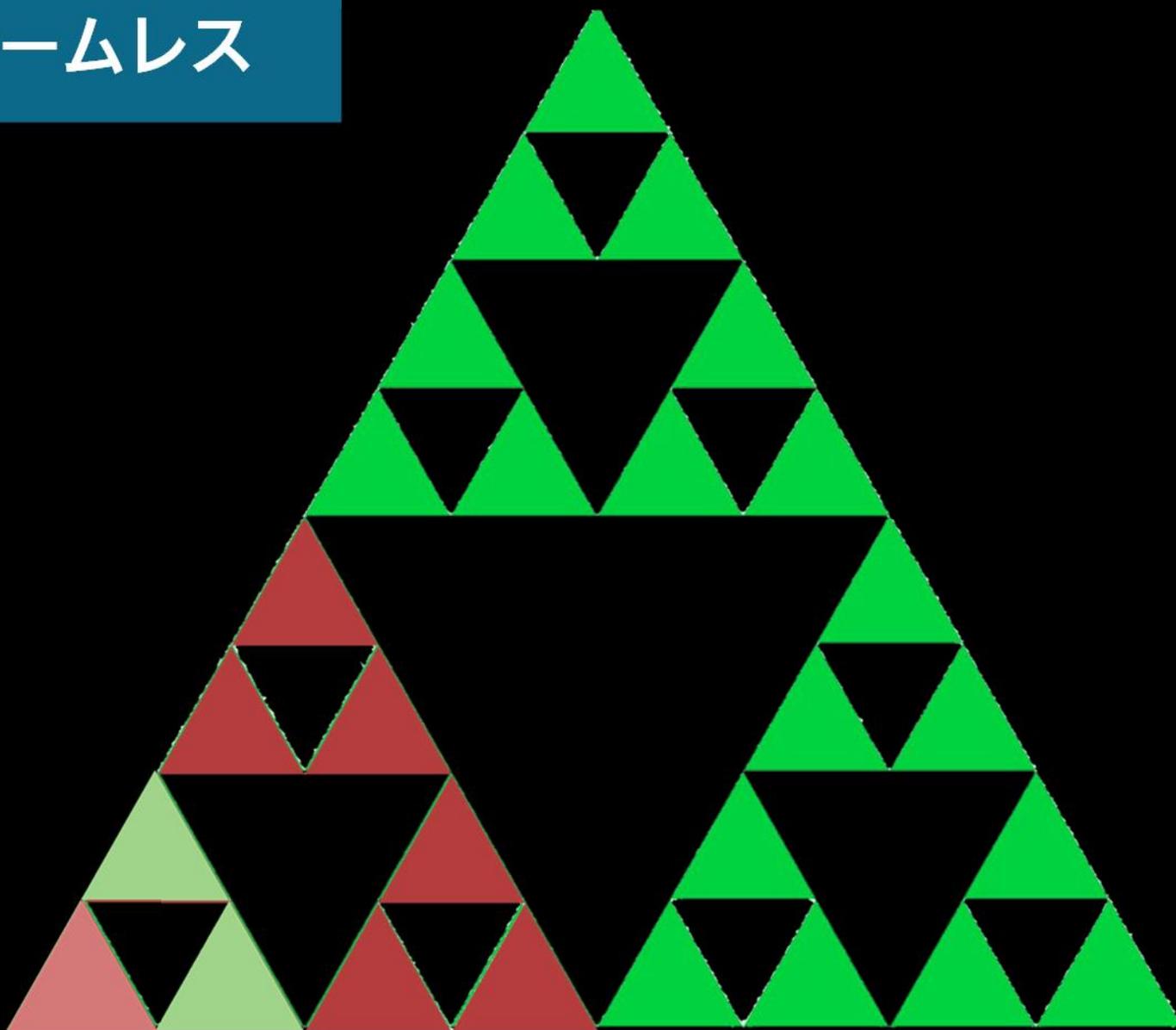
預言はフラクタルでシームレス

最終的回復 →

最後の裁き →

一時的回復 →

一時的裁き →





Ⅰ. もう一つの幻

ダニエル書8章1～14節

ユーフラテス川

幻 もう一つの幻 ダニエル8:1～2

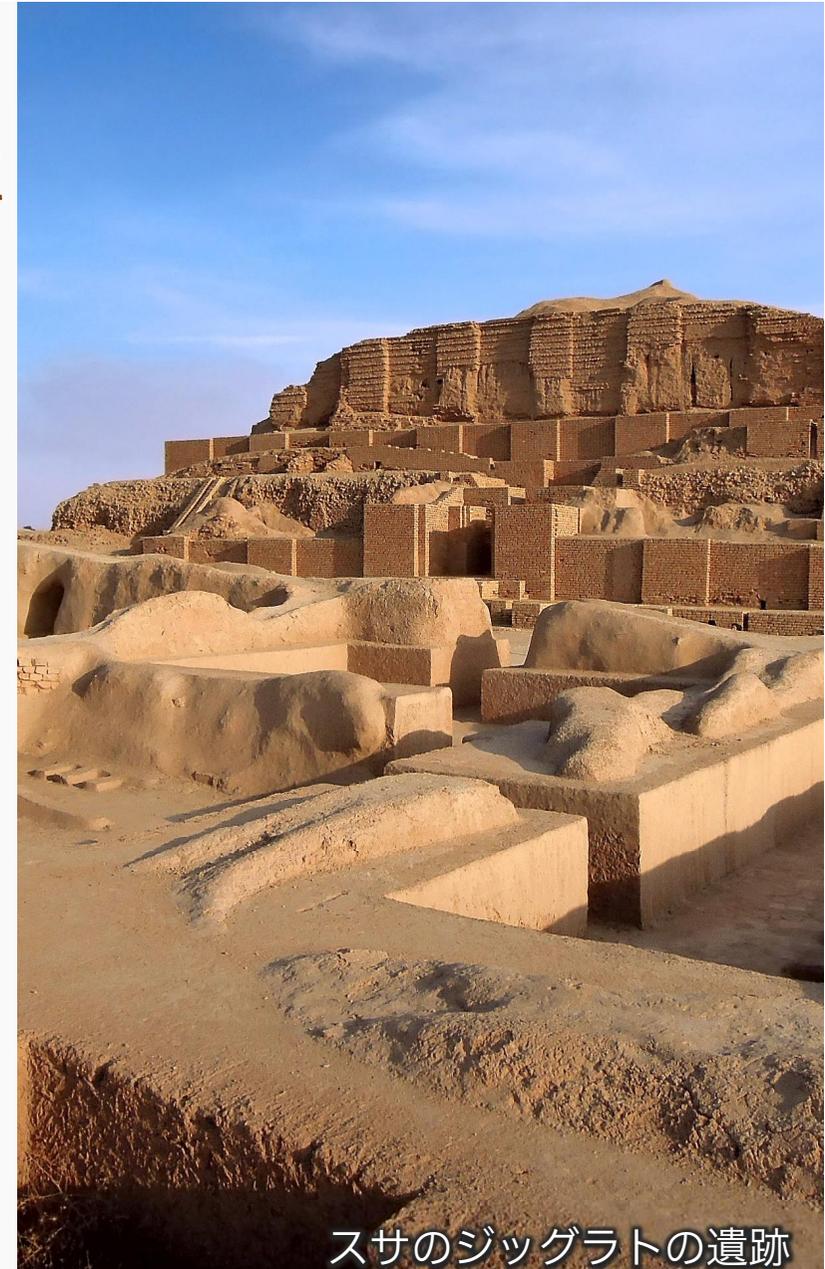
ベルシャツアル王の治世の第三年*、初めに私に幻が現れた*後、私ダニエルにもう一つの幻が現れた。

私は幻の中で見た。見ていると、私はエラム州にあるスサの城*にいた。なお幻を見ていると、私はウライ川のほとりにいた。

*ダニエル69歳。 *四頭の獣の幻

*バビロニアの一地方都市

➡後のペルシアの首都となる



スサのジググラトの遺跡

幻 一匹の御羊 ダニエル8:3

私が目を上げて見ると、なんと、一匹の雄羊が川岸に立っていた。それには二本の角があって、この二本の角は長かったが、一本はもう一本の角よりも長かった*。その長いほうは、後に出て来たのであった。

*メディアとペルシアの関係

➡歴史の浅いペルシアが主流に

■バビロニアを滅ぼすペルシアの台頭を予告



幻 高ぶる御羊 ダニエル8:4

私はその雄羊が、西や、北や、南の方を角で突いて*いるのを見た。どんな獣もそれに立ち向かうことができず、また、それから救い出す者もいなかった。雄羊は思いのままにふるまって、高ぶっていた。

*バビロン(西)、カスピ海沿岸(北)、
ペルシャ湾沿岸(南)



幻 一匹の雄ヤギ ダニエル8:5～6

私が注意して見ていると、見よ、一匹の雄やぎ*が、地には触れずに*全土を飛び回って、西からやって来た。その雄やぎには、際立った一本の角*が額にあった。

この雄やぎは、川岸に立っているのを私が見た、あの二本の角を持つ雄羊に向かって、激しい勢いで突進した。

*ギリシャ *素早い侵略

*アレクサンドロス大王



幻 四本の角 ダニエル8:7~8

見ていると、この雄やぎは雄羊に近づき、怒り狂って雄羊を打ち倒して、その二本の角をへし折ったが、雄羊にはこれに立ち向かう力がなかった。雄やぎは雄羊を地に投げ倒して踏みつけた。雄羊をこの雄やぎから救い出す者はいなかった。

この雄やぎは非常に高ぶったが、強くなったときにその大きな角が折れた。そしてその代わりに、天の四方に向かって、**際立った四本の角***が生え出て来た。

*ギリシャは、王の死後4つに分裂



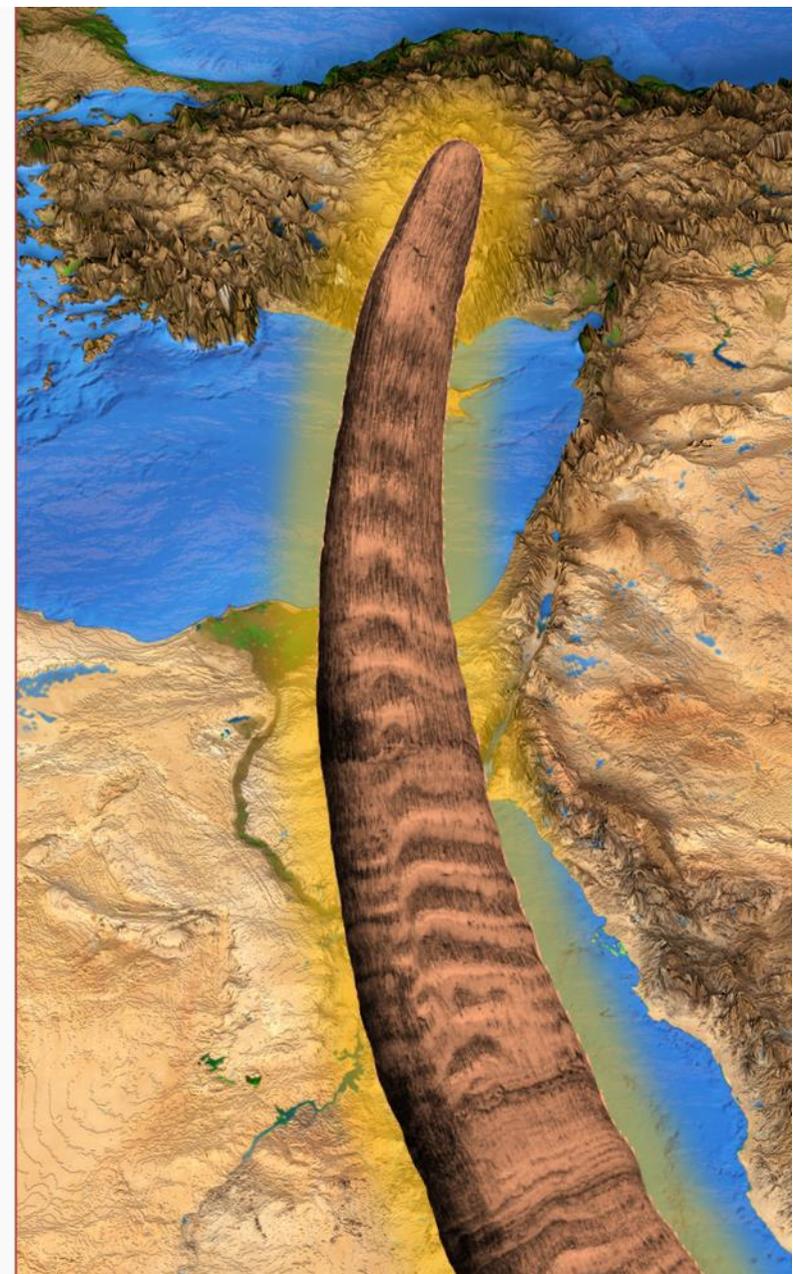
幻 もう一本の小さな角 ダニエル8:9

そのうちの一本の角から、もう一本の小さな角*が生え出て、南と、東と、美しい国*に向かって、非常に大きくなっていった。

*歴史的にあてはまるとされるのは、
セレウコス朝のアンティオコス4世
(アンティオコス・エピファネス)

*美しい国(イスラエル)

■次章の描写は、一人の人間の王には、
あてはまらない。



幻 覆された聖所 ダニエル8:10~11

それは大きくなって天の軍勢に達し、天の軍勢と星*のいくつかを地に落として、これを踏みつけ、軍の長に並ぶほどになり、彼から常供のささげ物を取り上げた。こうして、その聖所の基はくつがえされた。

*主の御使い・天使

- 一時的に、天の軍勢に勝利を収め、地上では神殿を汚す王
 - ➔ 反キリストしかいない

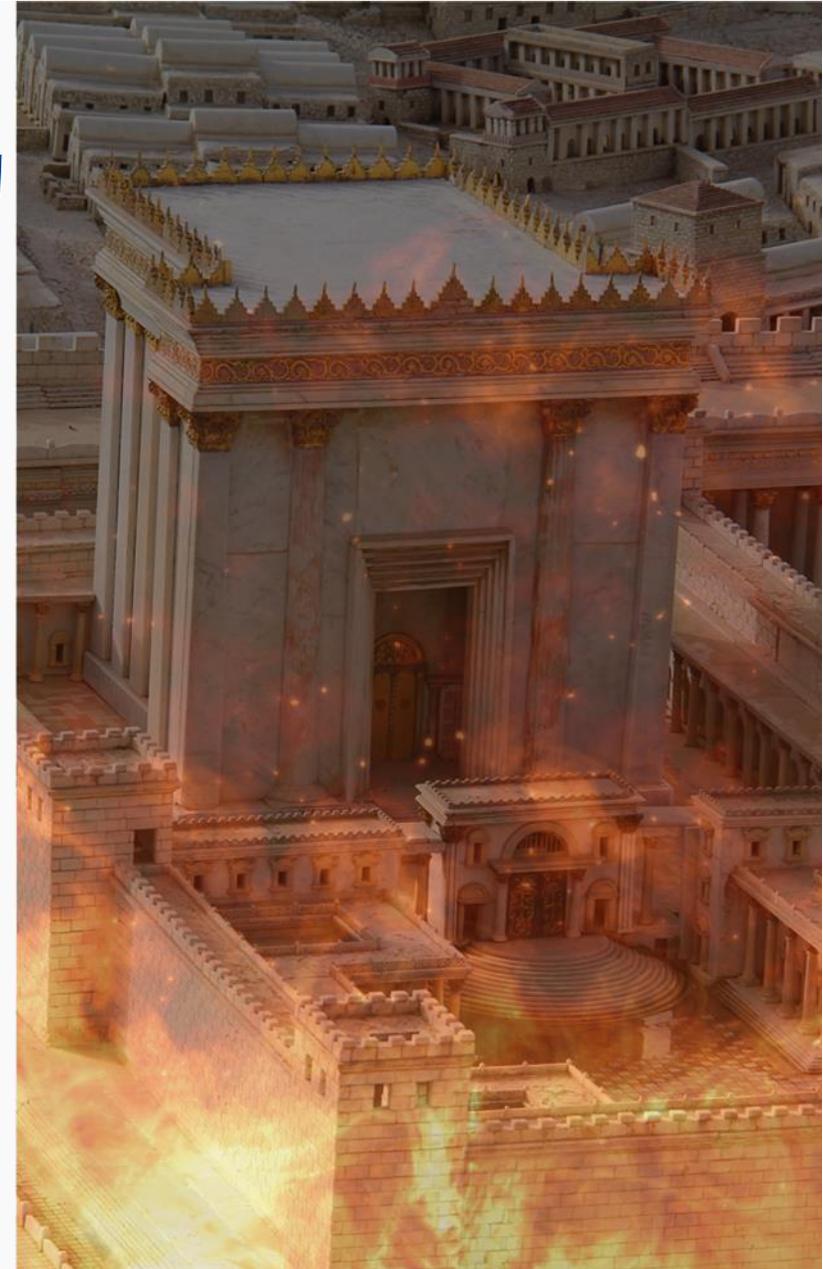


幻 投げ捨てられた真理 ダニエル8:12

背きの行いにより、**軍勢***は常供のささげ物とともにその角に引き渡された。その角は真理を地に投げ捨て、事を行って成功した。

*地上における神の軍勢

■反キリストは、自らを神として世界中の民にあがめさせる。



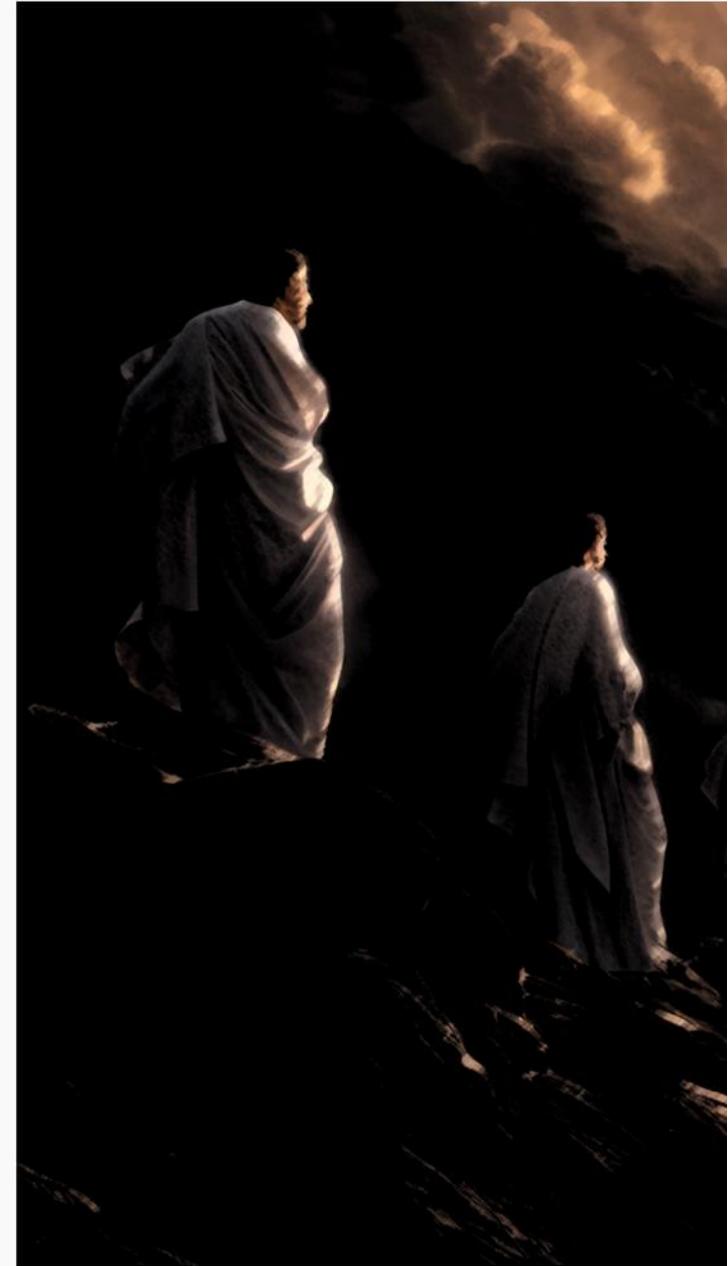
幻 聖なる者 ダニエル8:13～14

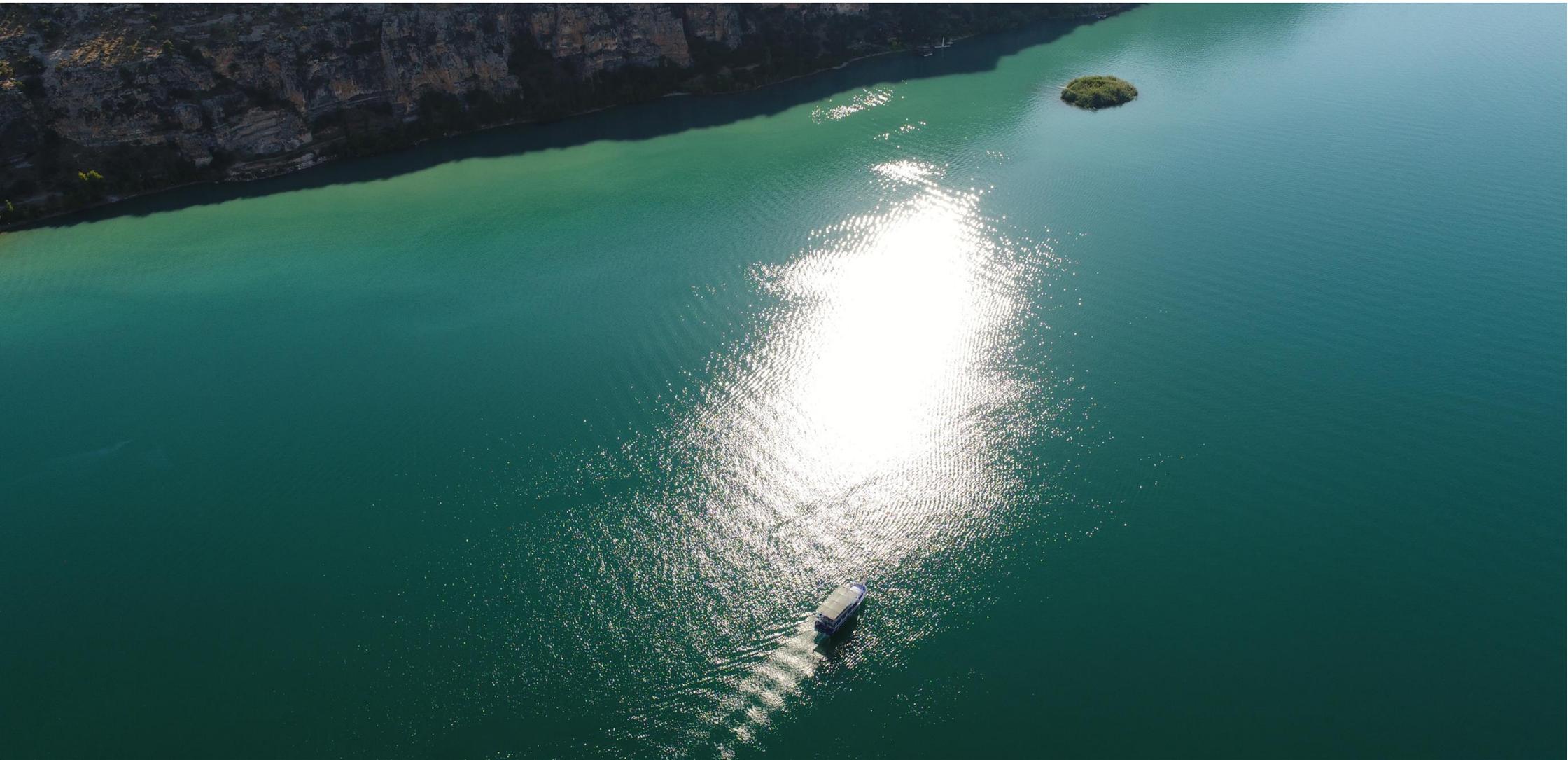
私は、一人の聖なる者*が語っているのを聞いた。すると、もう一人の聖なる者*が、その語っている者に言った。「常供のささげ物や、あの荒らす者の背き、そして聖所と軍勢が踏みにじられるという幻は、いつまでのことか」

すると彼は答えて言った。「二千三百の夕と朝*が過ぎるまで。そのとき聖所の正しさが確認される。」

*二人の御使いの会話から聞くダニエル

*2300日。約6年半。…他にはない数字





II. 幻の解き明かし

ダニエル書7章15～27節

ユーフラテス川

啓示 主の御使い ダニエル8:15~16

私ダニエルは、この幻を見たとき、その意味を理解したいと願った。すると見よ、勇士のように見える者*が私の正面に立った。

私は、ウライ川の中ほどから「ガブリエル*よ、この人にその幻を理解させよ」と呼びかけている人の声を聞いた。

*ガブリエル。…“神の戦士”“神の人”

マリアへ受胎告知した天使。

■主が遣わされた天使が、幻を解き明かす。

啓示 御告げ ダニエル8:17~18

彼は私が立っているところに来た。彼が来たとき、私はおびえて、ひれ伏した。すると彼は私に言った。「悟れ、人の子よ。その幻は終わりの時のことである。」

彼が私に語りかけたとき、私は地にひれ伏したまま意識を失った。

*天使ガブリエル

■終末について主の権威をもって語る天使

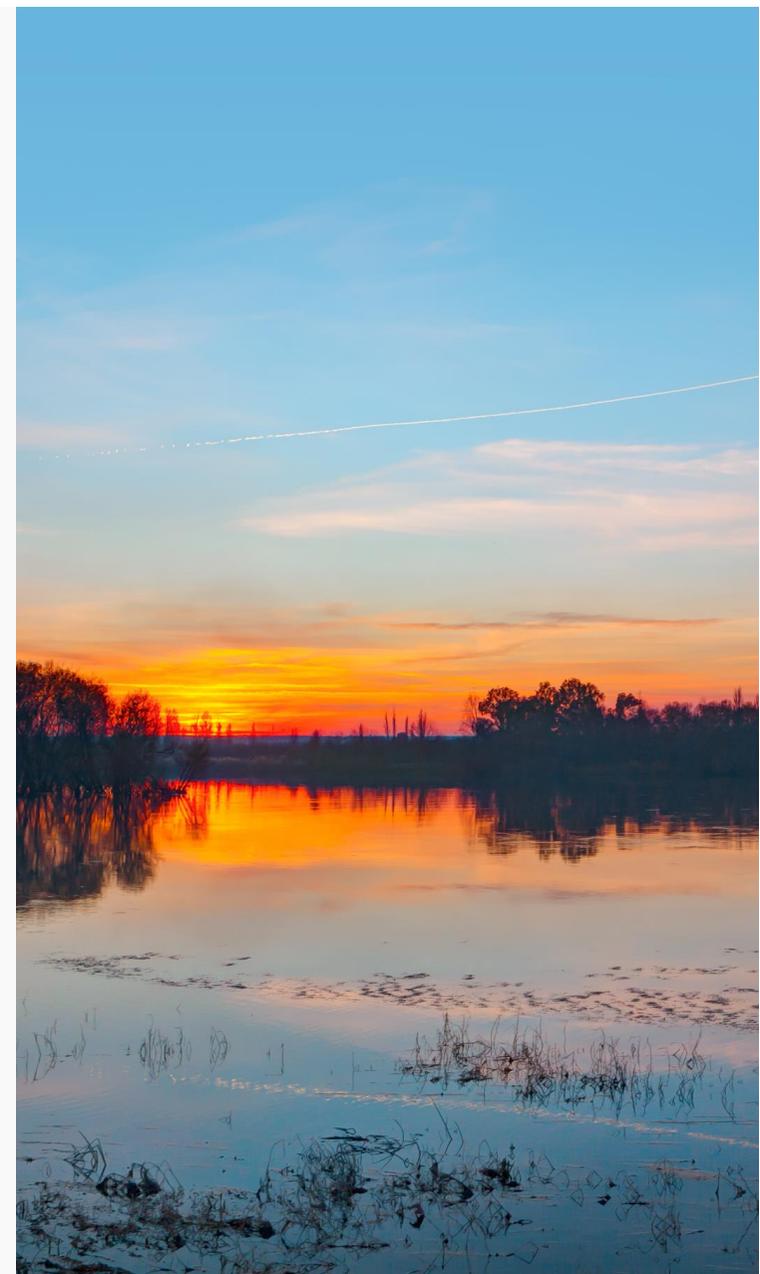


啓示 終わりの時 ダニエル8:18~19

しかし彼は私に触れ、その場に立ち上がらせて、こう言った。「見よ。私は、**終わりの憤りの時***に起こることをあなたに知らせる。それは、**終わりの定めの時***に関わることだ」

*神の怒りが地上に注がれる時

*主が定められた終わりの時



啓示 御羊と雄やぎ ダニエル8:20～21

あなたが見た二本の角を持つ雄羊は、メディアとペルシアの王である。

毛深い雄やぎはギリシアの王であり、その額にある大きな角はその第一の王*である。

*アレクサンドロス大王



啓示 終わりの王 ダニエル8:22～23

その角が折れて、代わりに四本の角が生えたが、それは、その国から**四つの国***が起こるということである。しかし、第一の王のような勢力はない。

彼らの治世の終わりに、その背く者たちが行き着くところに至ったとき、**横柄で策にたけた一人の王***が立つ。

*セレウコス、プトレマイオス、
リュシマコス、アンティパトロス

*主に逆らう究極的な王が、反キリスト



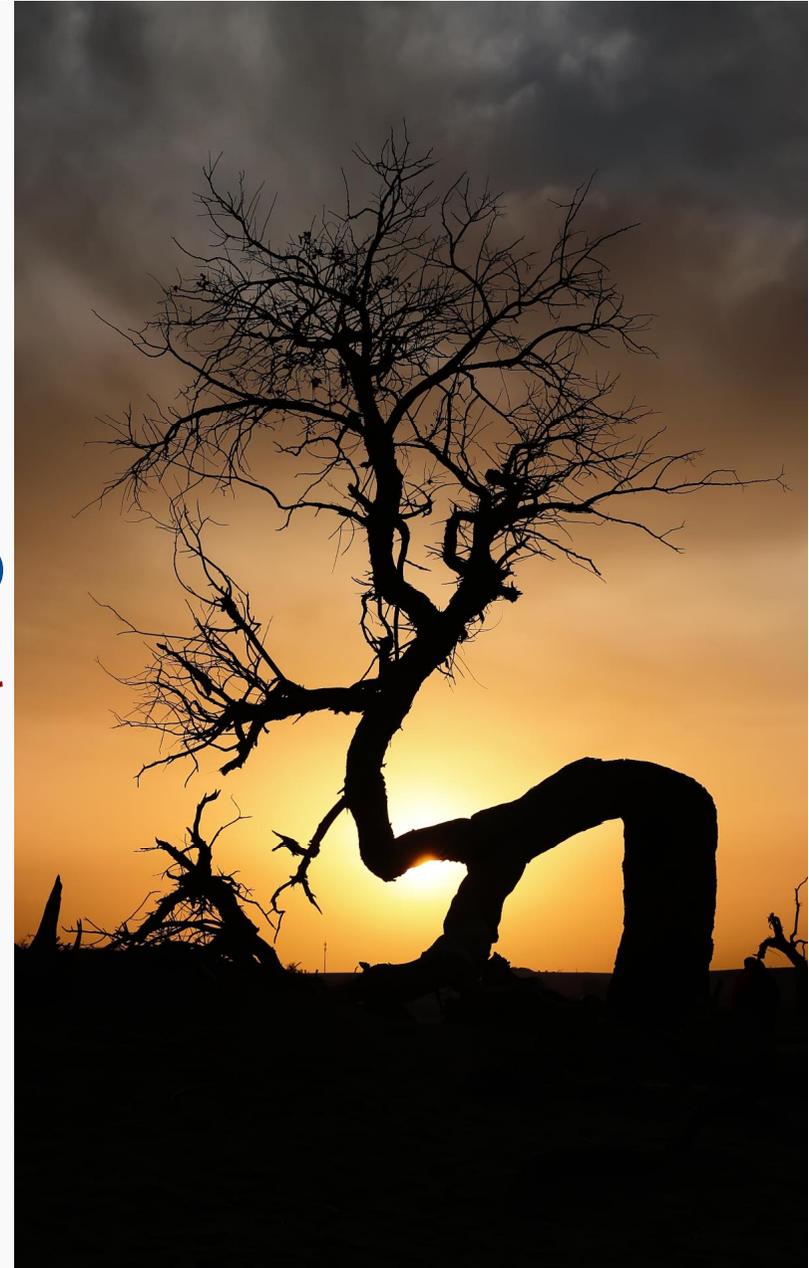
啓示 彼の最期 ダニエル8:24～25

彼の力は強くなるが、自分の力によるのではない*。彼は、驚くべき破壊を行って成功し、有力者たちと聖なる民を滅ぼす。

狡猾さによってその手で欺きを成し遂げ、心は高ぶり、平気で多くの人を滅ぼし、君の君に向かって立ち上がる。しかし、人の手によらずに彼は砕かれる*。

*神の許しの内に、サタンの力によって

*再臨のメシアが、反キリストを滅ぼす



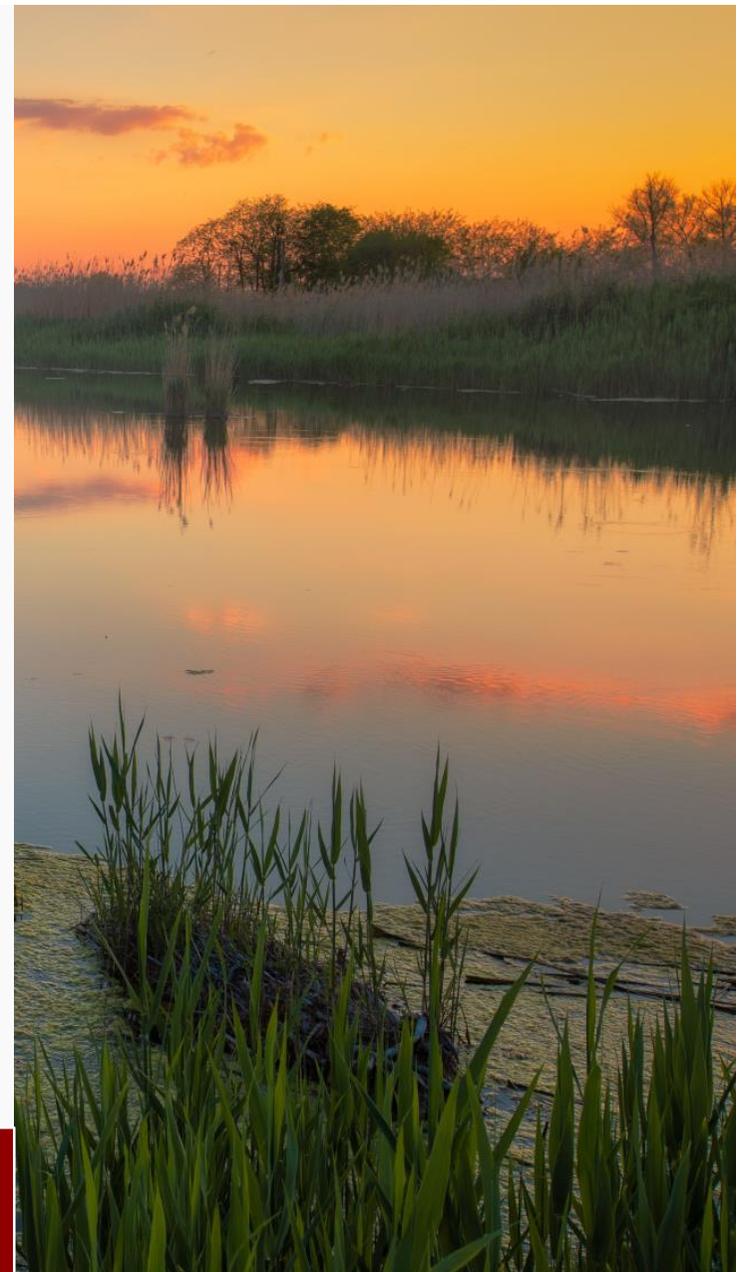
啓示 後日談 ダニエル8:26~27

先に告げられた夕と朝の幻、それは真実である。しかし、あなたはこの幻を秘めておけ。これはまだ、多くの日の後のことだから。」

私ダニエルは、何日かの間病気になったまままでいた。その後、起きて王の事務を執った。しかし、私はこの幻のことで驚きすくんでいた。それを理解できなかったのである。

- 病に伏せるほどの衝撃を与えた御告げ
 - ➔ さらなる預言が告げられていく

9章・七十週の預言へ





Ⅲ. まとめと適用

ヘレニズムとヘブライズム
人間中心か？ 神中心か？

ペルシア後の帝国の変遷

- ①マケドニア(ギリシャ)のアレクサンドロスが、全域を支配。
- ②4つに分裂。エルサレムは、プトレマイオス朝(エジプト)と、セレウコス朝(ペルシア)の板挟みに。
- ③ローマが台頭。セレウコスも属国化。…王の息子を人質に
- ④セレウコス朝のアンティオコス4世(アンティオコス・エピファネス)の時代に、エルサレムに大迫害が!!

反キリストの型・アンティオコス・エピファネス

- アンティオコス4世(エピファネス)は、
幼少期をローマで人質に。ヘレニズム文化に浸る。
- セレウコス朝の王となり、ヘレニズム文化を推進。
ギリシャの神々への崇拝を強要。神殿を汚す。
→ ユダヤ人の反乱を鎮圧。大虐殺。
- ユダ・マカバイが神殿を奪還(BC167)。
→ これを記念したのが、12月のハヌカの祭り



マカバイ戦争後のイスラエル

- ① マカバイ家により、**ハスモン王朝**が起こる。➡ローマが承認
- ② セレウコス朝が衰退する中、**ハスモン王朝**は最盛期に。
一時期は、ユダヤ・サマリアを支配。➡ソロモン時代に匹敵
- ③ ローマの**ポンペイウス**が占領。ローマの統治下に。
- ④ エドム人の**ヘロデ**が、ローマの傀儡として王に即位

ヘレニズム vs ヘブライズム

- アレクサンドロス以降、ヘレニズム*(ギリシャ文化)が流入。
*多神教、人間中心、コスモポリタニズム(世界市民主義)
→ 抵抗する形で、信仰的回帰を求める集団も(ヘブライズム)
- 離散が進む。エジプトの国際都市アレクサンドリアで、
ギリシャ語訳旧約聖書が誕生 → 七十人訳
- ハスモン王朝化で激化した、ヘレニズムvsヘブライズム
→ ギリシャ派(サドカイ派)vs律法主義者(パリサイ派)

現代にも続く ヘレニズム vs ヘブライズム

- 現代的ヘレニズム?! グローバリズム、ダイバーシティ…。
→ 人間中心、理性礼賛、世界市民主義
- イスラエルを二分する、リベラル vs 保守派の激しい対立。
- キリスト教世界で、福音派にまで浸透する、人間中心主義。
→ 恣意的な聖書解釈、感覚重視の礼拝、説教の危うさ…

神中心か？

人間中心か？

聖書の学びを常に土台にして、信仰を深めていこう

■使徒17:10～12

兄弟たちはすぐ、夜のうちにパウロとシラスをベレアに送り出した。そこに着くと、二人はユダヤ人の会堂に入って行った。

この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、非常に熱心にみことばを受け入れ、はたしてそのとおりかどうか、毎日**聖書**を調べた。

それで彼らのうちの多くの人たちが信じた。また、ギリシアの貴婦人たち、そして男たちも少なからず信じた。

★ 世の終わりのゴールを見定めつつ ★

- 混沌の時代に、ますます堅く立つべきは、主の御言葉。
聖書全体を貫く、強固な文脈の上に読み取っていこう。
- 聖書預言が、羅針盤のように常に指し示すのが、終末。
現在進行中の出来事は、来るべき世の終わりの影に過ぎない。
- 目の前のことに振り回されず、主の約束に堅く立とう。
主のみもとに挙げられる時まで、福音宣教に遣わされて行こう。

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

よ やみ なか しゅ あゆ みち しめ
世の闇の中で、主が、歩むべき道を示してくださっています。

しゅ みことば わたし い ちから かに
主の御言葉こそ、私たちの生きる力、いのちの糧です。

しゅ やくそく しんらい つよ ひび あゆ
主の約束への信頼を強めつつ、日々を歩ませてください。

みたま み へいあん うち わたし つか
御霊で満たされた平安の内に、私を遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」